

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|----------------------------|--|-------|--|-----|--------|---|------|------|-------|---|----|----|------------------|---|----|----|------------|---|----|----|
| 国際こども・福祉カレッジ | 1993/12/10 | 時田 久 | 〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通2番町547 (電話) 025-229-6555 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人国際総合学園 | 1957/10/10 | 池田 祥護 | 〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通2番町541 (電話) 025-210-8565 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教育・社会福祉 | 教育・社会福祉専門課程 | 福祉健康サポート学科 (旧名称:介護福祉学科) | 平成23年文部科学省告示 第166号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 本学科は、厚生労働大臣指定の介護福祉士の養成を行い、卒業時に国家資格である介護福祉士の受験資格を取得する。企業と連携した演習、実習を通して知識と技術を身につけ、相手の立場に立った介護サービスを提供できる介護福祉士を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成 26年 3月 31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 2130時間 | 1167時間 | 513時間 | 450時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒定員 | 留学生数(生徒定員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 80人 | 22人 | 0人 | 4人 | 1人 | 5人 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■1学期:4月1日～9月24日 ■2学期:9月25日～3月31日 | | 成績評価 | | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・評価内容:試験、レポート、授業内容等 ・評価基準:S(100～90点)、A(89～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59～0点) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日 ■夏季:8月8日～8月16日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■学年末:3月31日 | | 卒業・進級条件 | | 【卒業】・学科ごとに決められた単位数を修得 ・出席率90%以上 【進級】・成績評価が原則C以上 ・出席率90% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談、保護者との連携など | | 課外活動 | | ■課外活動の種類 学科交流研修(宿泊) 就職研修(日帰り) ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 介護老人保健施設 特別養護老人ホーム 老人デイサービスセンター など ■就職指導内容 ・就職実務(履歴書の書き方や面接練習など) ・模擬面接 など ■卒業者数 9 人 ■就職希望者数 7 人 ■就職者数 7 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 77.8 % ■その他 ・医療福祉マネジメント学科への内部進学1名 ・家庭の事情により未就職 (令和 2 年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報) | | 主な学修成果 (資格・検定等) ※3 | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士</td> <td>②</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>レクリエーションインストラクター</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>障害者スポーツ指導員</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table> | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 介護福祉士 | ② | 9人 | 9人 | レクリエーションインストラクター | ③ | 9人 | 9人 | 障害者スポーツ指導員 | ③ | 0人 | 0人 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護福祉士 | ② | 9人 | 9人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| レクリエーションインストラクター | ③ | 9人 | 9人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 障害者スポーツ指導員 | ③ | 0人 | 0人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者15名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者14名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 身体的・精神的な疾患、進路変更など ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、保護者との連携、教務会等での状況共有、スクールカウンセラーからの面談、基礎学力の向上のための補講 など | | ■中退率 6.7 % | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・特待生制度(入学時・進級時)…人物面、学方面等優れている者に、入学金や授業料の全部又は一部を免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | URL https://www.wm-c.ac.jp/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄とさせていただきます

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

介護福祉を取り巻く制度、環境、求められる専門職者像が大きく変化していく中で、それに対応しうる人材育成を目指す。その具現化のため、実践の現場で展開されているケア、新たな取り組みを入れて教育カリキュラムを構築することで、即戦力となる介護福祉士の養成を目指す

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

■学科長及び教務部長が各養成施設の基準に則り次年度カリキュラム案を作成。

■教育課程編成委員会において福祉業界等の動向や現場での最新状況を踏まえながら、カリキュラムや授業方法、シラバス等についての意見・提案を得る。

■教育課程編成委員会からの意見・提案をもとに学科長及び教務部長が各科目担当者にシラバスの作成を依頼。

■学校長の承認後、ホームページ上で公開し、学生へも周知を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|-----------------------------|--------------------|-------|
| 宮崎 則男 | 財団法人 新潟県介護福祉士会 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | ① |
| 廣瀬 哲也 | 社会福祉法人 愛宕福祉会 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | ③ |
| 一條 完 | 医療法人 愛広会 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | ③ |
| 前山 智明 | 社会福祉法人 太陽の園 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | ③ |
| 時田 一久 | 国際こども・福祉カレッジ 学校長 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | 学校側委員 |
| 富里 謙一 | 国際こども・福祉カレッジ 教務部長 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | 学校側委員 |
| 坂上 美由紀 | 国際こども・福祉カレッジ 福祉健康サポート学科 学科長 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | 学校側委員 |
| 渡辺 義之 | 国際こども・福祉カレッジ 福祉健康サポート学科 担任 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | 学校側委員 |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

※任期は1年とし委員本人から申し出の無い限り継続する。

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年11月16日 17:00～18:00 (実習後レポートについて、実習指導に関する意見交換 他)

第2回 令和3年3月4日 16:00～17:00 (新カリキュラムについて、コロナウィルスの影響に関する意見交換 他)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

新型コロナウイルス感染拡大防止に関連し、施設側としては厚生労働省の指導により、家族等の面会不可 職員のマスク着用、うがい手洗いの励行、検温等を実施している状況など委員からの情報提供もあり、現場実習について意見交換が行われた。その結果、原則、現場実習前の2週間と現場実習後の10日間をオンライン授業とし、実習生の行動履歴の把握、体温測定を徹底させ、実習前にはPCR検査を行うこと、実習中の体調不良時などの対応について事前に施設と共有しておくことなどが確認された。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実技・演習系の授業においては、根拠に基づいた介護技術と、現場での応用的な介護技術を融合した総合的なスキルの修得を目指す。そのために現場の職員からの授業、実践的なロールプレイを取り入れた学習内容とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

各段階ごとの目標設定に到達するため、学内での授業→実習→振り返り→次回の実習に向けての事前学習というサイクルでの学習とする。介護総合演習から介護実習に繋がる学習の継続性を重視し、第3段階実習においては総まとめの実習と位置づけ、修得した技術の展開、知識の確認をする。介護計画の実施を通して実践力を高め、理論と実践の統合を図り、新たな介護のあり方を研究する。実習先施設(連携企業)との連携においては、実習前オリエンテーションや実習巡回時、反省会等で情報共有を行い、実習内容の改善を図るとともに、学内での実習後報告会に出席された実習指導者からは直接学生にご意見を頂いている。また、実習終了時に実習先施設より提出頂く学生評価表は、実習評価の評価基礎資料となる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|----------|--|-------------------|
| 介護実習第1段階 | 利用者との人間的触れ合いを通じて、利用者の自助におけるニーズと介護の機能並びに施設職員の一般的な役割について学ぶ | (福)愛宕福祉会 (医)愛広会 他 |
| 介護実習第2段階 | 障害のレベルに応じて求められる介護技術の適正な用い方を学ぶための学習とする。担当利用者のアセスメントを通して必要な介護計画を考える | (福)愛宕福祉会 (医)愛広会 他 |
| 介護実習第3段階 | 実習の総まとめとして、修得した技術の展開、知識の確認をする。介護計画の実施を通して実践力を高め、理論と実践の統合を図り、新たな介護のあり方を研究する | (福)愛宕福祉会 (医)愛広会 他 |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

■教員は実践的かつ根拠に基づいた知識と技術を学生に享受するために常に自己研鑽に勤めなければならない。そのために学内に留まらず、外部研修への出席等を推奨する(介護福祉士養成施設協会の関東信越ブロック大会、全国大会、介護福祉教育学会の研修)

■常に現場との整合性を保つため、現場で働く職員を講師として招き研修会を実施する。現場職員と教員が意見交換する場を持ち、連携の上学生の指導にあたる。

■就業規則57条(教育)及び職員の教育・研修に関する細則において職員の研修、教育について規定する。

■研修等は毎年度学科長が研修計画を立案し学校長の許可を得て実施する。学科長はその専門分野における知識・技術等の研修と、指導力向上のための研修を精査し、新人研修、中堅者研修、管理者研修といったキャリアアップも考慮し、計画を立案する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

■研修名「日本レクリエーション協会 全国研究集会」

連携企業等:公益社団法人 日本レクリエーション協会

期間:令和3年3月7日 (対象:介護系教員)

内容:レクリエーションモデル授業、今後の課程認定校事務手続きに関する情報提供

■研修名「介護教員講習会」

連携企業名:社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

期間:令和3年1月17日、21日、24日、3月8日、9日、11日、16日、17日、19日、21日、22日、31日

内容:専門知識分野、専門分野について

■研修名「総踊り体操講習会」

連携企業名:新潟総踊り実行委員会

期間:令和3年度1月15日、22日、29日、2月5日、16日、3月4日

内容:総踊り体操の指導員取得のための講習

②指導力の修得・向上のための研修等

- 研修名「介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック新潟県部会」
連携企業等: 日本介護福祉士養成施設協会 新潟県ブロック
期間: 令和2年12月8日 (介護系教員)
内容: 県部会分科会活動(イベント・国家試験対策)について等
- 研修名「介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック新潟県部会」
連携企業等: 日本介護福祉士養成施設協会 新潟県ブロック
期間: 令和3年3月23日 (介護系教員)
内容: 県部会総会

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- 研修名「日本レクリエーション協会 全国研究集会」
連携企業等: 公益社団法人 日本レクリエーション協会
期間: 令和3年日程未定 (対象: 介護系教員)
内容: 課程認定校相互の連携やレク協会との連携
- 研修名「健康ゲーム指導士養成講座」
連携企業名: 日本アクティビティ協会
期間: 令和3年7月予定
内容: 健康ゲーム概論、健康ゲームの効果、健康ゲーム実践講座

②指導力の修得・向上のための研修等

- 研修名「介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック新潟県部会」
連携企業等: 日本介護福祉士養成施設協会新潟県ブロック
期間: 令和3年日程未定 (介護系教員)
内容: 介護福祉士国家試験対策模擬問題について、県主催のイベント活動協力
- 研修名「介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック新潟県部会」
連携企業等: 日本介護福祉士養成施設協会新潟県ブロック
期間: 令和3年日程未定 (介護系教員)
内容: 2021年度 収支報告 活動計画 分科会について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

その時代に求められる専門職者像を常に意識し、学校評価を通じて質の高い教育内容の検討、学生指導方法の改善を行う。そのため卒業生、職能団体(介護福祉士会等)、行政機関、地域住民代表等を構成員とする学校関係者評価委員会(委員定数:3名以上)を設置し、年1回以上定期的に開催する。

評価項目である教育目標や教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、財務、地域貢献等について、学校側から前年度の事業報告及び当年度の事業実施状況報告、さらに学校自己評価についての説明を行ったうえで学校関係者評価委員より質問及び意見交換そして評価を実施する。

学校長は評価結果の内容により学校教務部、事務局あるいは学校法人本部や行政機関、地域住民等と連携を図り、速やかに学校運営や教育内容の改善に活かしていくものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|-------------|--|
| (1) 教育理念・目標 | <ul style="list-style-type: none"> ■学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ■学校における職業教育の特色は何か ■社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ■学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか ■各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか |
| (2) 学校運営 | <ul style="list-style-type: none"> ■目的等に沿った運営方針が策定されているか ■運営方針に沿った事業計画が策定されているか ■運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ■人事、給与に関する規定等は整備されているか 資格教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ■業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ■教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ■情報システム化等による業務の効率化が図られているか |
| (3) 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ■教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ■教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ■学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ■キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ■関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ■関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ■授業評価の実施・評価体制はあるか ■職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ■成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ■資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ■人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ■関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ■関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ■職員の能力開発のための研修などが行われているか |

| | |
|----------------|--|
| (4) 学修成果 | <ul style="list-style-type: none"> ■就職率の向上が図られているか ■資格取得率の向上が図られているか ■退学率の低減が図られているか ■卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ■卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか |
| (5) 学生支援 | <ul style="list-style-type: none"> ■進路・就職に関する支援体制は整備されているか ■学生相談に関する体制は整備されているか ■学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ■学生の健康管理を担う組織体制はあるか ■課外活動に対する支援体制は整備されているか ■学生の生活環境への支援は行われているか ■保護者と適切に連携しているか ■卒業生への支援体制はあるか ■社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ■高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか |
| (6) 教育環境 | <ul style="list-style-type: none"> ■施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ■学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ■防災に対する体制は整備されているか |
| (7) 学生の受入れ募集 | <ul style="list-style-type: none"> ■学生募集活動は適正に行われているか ■学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ■学納金は妥当なものとなっているか |
| (8) 財務 | <ul style="list-style-type: none"> ■中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ■予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ■財務について会計監査が適正に行われているか ■財務情報公開の体制整備はできているか |
| (9) 法令等の遵守 | <ul style="list-style-type: none"> ■法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ■個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ■自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ■自己評価結果を公開しているか |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ■学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ■学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ■地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか |
| (11) 国際交流 | — |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

令和2年7月16日に学校関係者評価委員会を開催した。新型コロナウイルス感染防止のため委員の半数がオンライン参加となった。委員からはコロナ対応として適時実施されているオンライン授業について、特に新入生及び現場実習に向かう学生たちが不安にならないよう対応する旨助言もあり、オンライン授業に関するアンケートを実施して各クラスの状況把握、環境改善に努めたり、自宅でのWi-Fi環境が整わない学生には教室を開放する等の対応を行った。なお学校運営においては働き方改革の面からも、教職員が精神的・肉体的に疲弊しないよう、各自の有休取得状況の把握、促しを行ったり、超過勤務が常態化しないよう業務分担の見直しや効率化を心掛けている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|------------------|--------------------|-------|
| 荒井 哲 | 古町2番町 町内会 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | 町内会 |
| 稲田 泰紀 | 国際こども・福祉カレッジ 校友会 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | 卒業生 |
| 宮崎 則男 | 新潟県介護福祉士会 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | 企業等委員 |
| 地引 文貴 | 新潟市児童相談所 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 | 行政機関 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

※任期は1年とし委員本人から申し出の無い限り継続する。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.wm-c.ac.jp/>

公表時期 令和2年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

■学校評価の評価結果、内容を広く関係団体、実践の現場、一般市民に公開し、積極的な情報公開に努める。それを通じ、産学連携、地域と一体となった教育活動に取り組んでいく。

■学校運営に関わる情報、学校の教育活動、取り組み等を地域、現場に公表する事で相互理解を深めていく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|---|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | 名称、学校所在地、沿革、設置学科、設置者、常勤教職員数、非常勤教職員数、校訓、教育方針、学校運営理念、学校運営方針 |
| (2) 各学科等の教育 | 学科概要、進級基準、卒業基準、進級・卒業判定、成績評価、評価基準、考查資格、追試験、補講、成績表、成績優秀者、試験に対する注意事項、スクーリングに関わる注意事項、校外での実習授業に関する基準事項 |
| (3) 教職員 | 学科別使用校舎および教職員(教職員名) |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | 現場実習 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | カレッジ・フィールド・ワーク・プログラム(学校行事) |
| (6) 学生の生活支援 | 事務局業務 基本ルール 委員会活動 学生支援体制 事務手続き 就職活動について 個人情報の取り扱いについて |
| (7) 学生納付金・修学支援 | 奨学金制度・学費サポート制度 |
| (8) 学校の財務 | 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表 |
| (9) 学校評価 | 学校自己評価報告書 |
| (10) 国際連携の状況 | — |
| (11) その他 | — |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法: ホームページで公開

URL <https://www.wm-c.ac.jp/>

授業科目等の概要 1

| (教育・社会福祉専門課程 福祉健康サポート学科) 2021年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|------------------|------------------|----------------|--|------------------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 人間の尊厳と自立 | 「人間の尊厳」「自立・自律」の概念についてできる限り具体的な例を通して考察できる授業とする | 1 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 人間関係とコミュニケーション | コミュニケーションの意義を学習し、コミュニケーション能力の基盤をなす情報の受け渡しには様々な方法があることを理解し、適切な受け渡し方法を選び取る力を養う | 1 前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 社会の理解Ⅰ | 「自助力」「互助」「共助」あるいは社会制度としての「公助」があることを学習し、それぞれの役割と意義を明らかにする | 1 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 社会の理解Ⅱ | 「介護保険制度と障害者自立支援制度」「介護実践に関連する諸制度」のそれぞれの理解と制度としての相互の関連性を明らかにする | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | レクリエーション活動援助法1 | 介護実習において実践できるように、集団及び個人向けのレクリエーション計画を立てる | 1 前 | 30 | 1 | 0 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | レクリエーション活動援助法2 | 介護実習において実践できるように、集団及び個人向けのレクリエーション計画を立てる | 2 前 | 30 | 1 | 0 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 人間関係論 | 演習を通して組織における専門職として必要な人間関係や弱者に対する配慮とコミュニケーションを学ぶ | 1 後 2 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 介護の基本ⅠA | 事例を通して、利用者を「生活する人」と受け止め、一人ひとりを大切にすることを学ぶ | 1 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間 (単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要 2

| (教育・社会福祉専門課程 福祉健康サポート学科) 2021年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|------|------|-------------|--|------------|----------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 介護の基本ⅠB | ケアマネジメント及びケアプランの流れとしくみが理解できる | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 介護の基本ⅡA | 介護の意義、役割り及び専門性について歴史や関連法規を通して理解する | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 介護の基本ⅡB | 介護の意義、役割り及び専門性について歴史や関連法規を通して理解する | 2通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | コミュニケーション技法 | 利用者の特性に応じたコミュニケーション技法を、事例に基づきグループワークを行い、実践可能となるような授業 | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生活支援技術ⅠA | 生活環境づくりを中心に演習する | 1後2前 | 40 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 生活支援技術ⅠB | 栄養学を踏まえた献立の作成。高齢者に適した食事を考え、グループに分かれて調理実習を行なう | 2前 | 20 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 生活支援技術ⅡA | 基本的な介護技術を実施 | 1通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生活支援技術ⅡB | 事例をもとに、一人ひとりにあった介護技術を検討しながら練習を繰り返す | 1通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生活支援技術ⅢA | 利用者の状態や状況に設定し、それに応じた介護技術を検討し発表する | 2通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間 (単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要 3

| (教育・社会福祉専門課程 福祉健康サポート学科) 2021年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|------------------|------------------|------------|---|------------|------------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|---|---|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | | |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | | | |
| ○ | | | 生活支援技術ⅢB | 利用者の状態や状況に設定し、それに応じた介護技術を検討し発表する | 2 通 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | | |
| ○ | | | 介護過程Ⅰ | 介護実践過程の全体像を理解させる | 1 通 | 90 | 6 | ○ | | | ○ | | ○ | | | | |
| ○ | | | 介護過程Ⅱ | 「生活することの意味」や「人生の尊さ」「介護福祉士としての仕事の魅力」などを、事例を通して学ぶ | 2 通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | | | |
| ○ | | | 介護総合演習第1段階 | 介護実習の教育効果を上げるため、事前事後の演習、講義にて介護技術、知識の確認を行なう | 1 前 | 40 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| ○ | | | 介護総合演習第2段階 | 事例をもとにアセスメントからプランニングの過程を学習する | 1 後 | 40 | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| ○ | | | 介護総合演習第3段階 | 事例をもとにアセスメントから評価の過程を学習する | 2 前 | 40 | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| ○ | | | 介護実習第1段階 | 基本的な介護技術を実施 | 1 前 | 1 3 5 | 10 | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| ○ | | | 介護実習第2段階 | 事例をもとに、一人ひとりにあった介護技術を検討しながら練習を繰り返す | 1 後 | 1 2 7 5 | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ |
| ○ | | | 介護実習第3段階 | 利用者の状態や状況に設定し、それに応じた介護技術を検討し発表する | 2 後 | 1 8 7 5 | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間 (単位) | | | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要 4

| (教育・社会福祉専門課程 福祉健康サポート学科) 2021年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|------------------|------------------|----------------|--|------------------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 発達と老化の理解 | 老化に伴う心身の変化やそれが日常生活に及ぼす影響、老年期における役割りの変化など、高齢者の気持ちについて深く理解する | 1 通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 認知症の理解 I | 講義、視聴覚教材、事例を用いて、認知症の病気や特徴を理解させる | 1 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 認知症の理解 II | 講義、視聴覚教材、事例を用いて、認知症の病気や特徴を理解させる | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 障害の理解 I | 自立に向けた支援、地域におけるサポート体制にも配慮して学習していく | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 障害の理解 II | 自立に向けた支援、地域におけるサポート体制にも配慮して学習していく | 2 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | こころとからだのしくみ I | こころとからだの両面から利用者を見て、その状態がそのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ | 1 通 | 90 | 6 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | こころとからだのしくみ II | こころとからだの両面から利用者を見て、その状態がそのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 医療的ケア I | 介護福祉士における医療行為を行う者として、吸引、経管栄養のしくみを解剖学、生理学の面も含め学習する | 1 通 2 前 | 51 | 3 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 医療的ケア II | 吸引、経管栄養を必要とする利用者の気持ちの理解を踏まえ、実際のシュミレーションが行えるようになる。評価通り正しく行うことができる。また、2010ガイドラインにおける救急蘇生法を学ぶ | 2 前 | 33 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間 (単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要 5

| (教育・社会福祉専門課程 福祉健康サポート学科) 2021年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|------------------|------------------|----------|---|------------------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 就職実務 | 職業選択を通して、自分自身を見つめ直し、将来について具体的にイメージできる。専門職業人としての自己覚知ができ社会人としてのマナー・態度を身に付ける | 1 通 2 通 | 66 | 4 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | 0 | 0 | 国家試験対策授業 | 国家試験に向けて、試験対策学習及び模試を行う | 1 後 2 通 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | 0 | 0 | 福祉講座 | 社会福祉講座、災害対策セミナー、税金セミナー、心理学セミナー、手話講座など社会福祉に必要な項目を学ぶ、 | 1 通 2 通 | 60 | 4 | ○ | ○ | | ○ | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | 38科目 | 2130 | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|---|----------|---|
| 卒業認定単位は100単位。介護福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法の定める単位を修得しなければならない。履修すべき授業時数は3分の2以上で「介護実習」については5分の4以上で認定とする。 | 1学年の学期区分 | 0 |
| | 1学期の授業期間 | 期 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。